

〜おおいしだめとんとむがすあつたけど⑦〜

ぼんさらやさら

来迎寺（地名）の最上川で百姓の娘が野菜を洗っていた。秋の遅い時季なので娘は鼻水をたらしていた。そこへ、川遊びに来ていた殿様の舟が近づく。殿様は、若い娘が鼻水をたらしているのを、和歌でからかってみた。

谷川に小菜（野菜のこと）ふり濯ぐ乙女子の背の高ければ嫁にしたきを

すると、娘はすぐに歌で返した。

この山の椿・つつじを御覽せよ背は低くとも花は咲きたり

殿様はびっくりして家来に

「あの娘を、屋敷に連れてくるように。」と命じた。

次の日、家来は来迎寺を訪れた。娘の家はすぐにわかった。その家には、後妻とその娘と先妻の娘が居た。家来は

「きのう、野菜を洗っていたのはどの娘だ。」

と聞く。後妻は自分の娘を指さした。嘘に気付かないまま家来は屋敷に連れて行く。屋敷では殿様が首を長くして待っていた。

「おう、よく来た。これから歌を詠んで楽しむのではないか。」殿様はまず大きな盆を用意した。次に盆の上に八枚の皿を並べ、皿に塩を盛った。最後に松の葉と茅の葉をのせた。

「どうだ。これで歌を詠んでみる。」

後妻の娘は歌を詠んだことがない。仕方がないので、

盆の上に皿 皿の上に塩 塩の上に松と茅

殿様はがっかりして、

「この娘ではない。きのう鼻水をたらしていたあの娘だ。あの娘をつれてこい。」

家来は急いで来迎寺に行き、今度は先妻の娘を連れてきた。

殿様は先ほどと同じに盆の上に八枚の皿を並べ、塩を盛り、松と茅の葉をのせた。

「どうだ。これで歌を詠んでみる。」

先妻の娘はしばらく考えていたがやがて、

ぼんさらやさら
さらけがやまに ゆきふりて
ゆきをねにして そだつまつかや

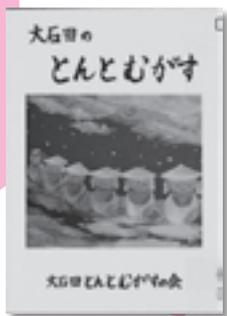
「ぼんさらやさら」の「やさら」とは年中行事。二月九日に村人が集まり八枚の皿に酒を注いで回し飲みをすると病にならない、災いにあわなるとの厄除け。「さらけがやま」は山の名前ではなく「更地」のさら、つまり何も無い山。「ゆきふり」は空から降ってくる雪。「ゆきをねにして」は根の周りは雪にうもれようとする意味。「そだつまつかや」は松は育っているとの意味。

「『やさら』をしなさい。そうすれば何も無い山でも、雪が降ろうとも、松はしっかりと育ちますよ。」

殿様は先妻の娘を大変気に入り、嫁としてむかえた。

○出典『大石田のとんとむがす』（大石田とんとむがすの会編集・発行 二〇一九年、町立図書館蔵）

◇編集・発行 大石田町総務課
〒999-4112 山形県北村山郡大石田町緑町1番地 ☎0237-35-2111 FAX 0237-35-2118



町の人口 令和2年1月1日現在

世帯数	2,348 戸	(+8)
総人口	6,945 人	(-6)
男	3,404 人	(-12)
女	3,541 人	(+6)

(12月中の異動)

出生	2 人	転入	12 人
死亡	14 人	転出	6 人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

楽がき帳

今月17日から劇場公開が始まった映画「コンプリシティ／優しい共犯」。近浦監督と主演のルー・ユライさんの舞台挨拶があったので、映画館に行きました。

これが3回目の鑑賞なので、町の景色と人物が大画面に映りまくることにもすっかり慣れて、じっくりと観てきました。それでもエキストラとして自分が映るシーンだけは、何度見ても気恥ずかしいですね。上映後に、近浦監督とルー・ユライさんからパンフレットにサインをもらい、さらに、ルー・ユライさんとは、狭い場所で握手をしながら、お互いにちよっと下げた頭をぶつけるという、とても貴重な(?)体験をしてみました。(あ)